

God With Us

Part 3: A King in place of THE KING.
1st and 2nd Samuel

Message 10– David King of Judah
1 Samuel 31- 2 Samuel 4
(1 Chronicles 12:23-40)

神は我らと共に

パート 3: 王 (神) に代わる王
サムエル記第一・第二

メッセージ 10 – ユダの王ダビデ
第一サムエル 31 章 – 第二サムエル 4 章
(歴代誌第一 12 : 23 – 40)

はじめに

誰でも待つのは苦手である・・・特に、ゴールに手が届きそうなとき。ダビデにとって、イスラエルの二代目の王として油が注がれた日から、実際に王権が始まるまでの間 (約 15 年間) それは長く骨の折れる旅路であった。その殆どは、殺害しようとしてくるサウルから逃れる亡命者として過ごした。しかし、今、サウルの命は終わりに近づき、ダビデの王権への道が開けているように見えた。その変わり目はスムーズには行かない、むしろ、残りのサウルの従者「ハウス・オブ・サウル」と「ハウス・オブ・ダビデ」の間の困難はさらに 7 年半もの月日が伴う。神から与えられた役割への道のりは必ずしも迅速かつ簡単というわけにはいかない。神のご計画通りの次の舞台を待つ間、忍耐と信頼を培うよう招いておられる。

サウルの苦い終わり : 31 : 1 – 13

第一サムエルの最終章は、サウルのペリシテ人との戦いの悲しい終わりを物語る (神がサウルを消してくださった戦いである。)。この章の全ての句は悲劇の連鎖である :

–イスラエルの男たちは逃げ、傷ついて倒れた。(1 節)

–ペリシテ人は、サウルの 4 人の息子の内、ヨナタンを含む 3 人を殺した。

(2 節)

–戦いは激しくサウルに迫り、サウルはひどい傷を負わされた。(3 節)

–サウルは剣をとってそれに伏して自殺した。(4 節)

–武器を執る者もまたつぎの上に伏して死んだ。(5 節)

–サウルは息子、武器を執る者、その従者共に死んだ。(6 節)

–イスラエルは逃げ、ペリシテ人はその町々を奪った。(7 節)

–ペリシテ人はサウルとその息子たちがギルボア山で死んでいるのを見つけた。(8 節)

–彼らの頭を切り取り、その良い知らせを彼らの偶像に送った。(9 節)

–彼らの武器は、彼らの偶像の礼拝堂に送られた。(10 節)

–彼の胴体は町の壁につるされた。(10 節)

この章は聖書の中に記されている最も悲しい「最終章」である。しかし、それは、サウルが主に繰り返した反抗の数々が招いた結果であった。

こうしてサウルは主にむかって犯した罪のために死んだ。すなわち彼は主の言葉を守らず、また口寄せに問うことをして、10:14 主に問うことをしなかった。(歴代誌第一 10 : 13 – 14 a)

悲しいかな、神に従った偉大な男、ヨナタンでさえも、その父サウルの罪が原因で命が縮められた。神の主権の御手は、周囲には惜まれるような真に素晴らしい者であっても、死の命令を下されることがある : ヨナタン、弟子のステパノ (使徒の働き 7 章)、ヤコブ (使徒の働き 12 章)。サムエル記第一 31 章の中で唯一前向きな注意書は、(何年も前に) サウルによって救われたヤベシ・ギレアデの勇敢な男たちが、夜もすがら赴き、彼らに敬意を表し、サウルの遺体とその 3 人の息子たちを適切な方法で埋葬したということである。

「終わりまで見通しながら」生きることは賢明である。あなたの物語の最終章はどのように読みたいでしょうか?何を覚えてもらいたいでしょうか?多くの人は、真の目標も優先順位も持たないまま、ただ莫大なやらなくてはならないことリストに追われて人生の終わりへと漂流します。ここで、第一サムエル 31 章に基づいて応用問題です。神の導きを祈った上で 100 語以内

で「あなたの最終章」を書いてください。あなたは、神に与えられているこの地上での旅路が終わる前に、何を成し遂げたいでしょうか？

ダビデ、サウルとヨナタンに敬意を表する： 1：1－27

聖書は、敵の敗北を祝ってはならないと教えている。あなたのあだが倒れるとき楽しんでほしくない、彼のつまずくとき心に喜んでほしくない。

（箴言24：17、17：5）しかしあなたは自分の兄弟の日、すなわちその災の日をながめていてはならなかった。あなたはユダの人々の滅びの日に、これを喜んでほならず、その悩みの日に誇ってはならなかった。（オバデヤ1：12）

サウルの死を知ったダビデに微笑は無かった、むしろ嘆いた。

そのときダビデは自分の着物をつかんでそれを裂き、彼と共にいた人々も皆同じようにした。彼らはサウルのため、またその子ヨナタンのため、また主の民のため、またイスラエルの家のために悲しみ泣いて、夕暮まで食を断った。それは彼らがつるぎに倒れたからである。

（第二サムエル1：11、12）

そのときダビデはサウルを生涯の対戦相手としてではなく国民的英雄として記した。下記はダビデがサウルとヨナタンを称える鍵となる箇所である。下線の部分に注意して読みながら、十年以上もの間ダビデに数え切れない困難を与え続けた人であることを思い出しましょう。

「イスラエルよ、あなたの栄光は、あなたの高き所で殺された。ああ、勇士たちは、ついに倒れた。・・・ヨナタンの弓は退かず、勇士の脂肪を食べないで、サウルのつるぎは、むなしくは帰らなかった。・・・サウルとヨナタンとは、愛され、かつ喜ばれた。彼らは生きるにも、死ぬにも離れず、わしよりも早く、ししよりも強かった。イスラエルの娘たちよ、サウルのために泣け。彼は緋色の着物をもって、はなやかにあなたがたを装い、あなたがたの着物に金の飾りをつけた。ああ、勇士たちは戦いのさなかに倒れた。ヨナタンは、あなたの高き所で殺された。わが兄弟ヨナタンよ、あなたのためわたしは悲しむ。あなたはわたしにとって、いとも楽しい者であった。あなたがわたしを愛するのは世の常のようではなく、女の愛

にもまさっていた。ああ、勇士たちは倒れた。戦いの器はうせた」。
（1：19－27）

敵が躓いたときに喜ばれたことはありませんか？もし、そうである場合、おそらく、あなたの心の奥に悲痛が埋もれていることを表します。それは解放され癒される必要がある。あなたに立ち向かう者や傷つけた者の躓きを喜ぶかわりに、逆に神を称える選択を検討しましょう：1) その人に取りついた罪の力を嘆く。2) その人たちが神に喜ばれる道へと戻ることが出来るよう祈る。3) あなたの赦しを伝えましょう。4) その後の会話では、その人について前向きなところを探しましょう。

ダビデ、ユダ王国の王となる： 2：1－7

サウルの死後、ダビデは即イスラエルの王位に着くであろうと思っただけに違いない。ところが、イスラエルは忠誠心が分裂していたため、そのようには行かなかった。ダビデはまず主に、いつ、どのようにイスラエルの王として自身を捧げればよいかを問うために具体的な祈りを捧げた。

この後、ダビデは主に問うて言った、「わたしはユダの一つの町に上るべきでしょうか」。主は彼に言われた、「上りなさい」。ダビデは言った、「どこへ上るべきでしょうか」。主は言われた、「ヘbronへ」。
（2：1）

ダビデが神との関係の内に生き、神の軌道を歩んでいるとき、祈りは不変の課題であった。祈りは、あなたの歩みの中で主を認めるための一番の近道である。主はあなたの道をまっすぐにされる。（箴言3：6）それでは、なぜ私たちは、日々の決断において祈ることを怠ってしまうのでしょうか？忙し過ぎるのでしょうか？気が散乱しているのでしょうか？急ぎ過ぎているのでしょうか？自信過剰であるためでしょうか？それとも、ただ、神を会話に招くことを忘れてしまうためでしょうか？どんな決断に迫られているときも「神に問う」ということを忘れてはなりません。神の方法であなたの人生に神が持たれるご計画に沿った留まるべき方向を与えてくださいます。

大きい南の王国（ユダ王国）は直ちにダビデを王として迎えた。しかし、北の王国（イスラエル王国）は、イシュ・ボシェテ（サウルの最後の息子）が新しい王であると宣言したサウルの元将軍（いどこでもあった）アブネルの指導下で団結した。この南北の分裂はその後7年半続く。

ダビデが南の王国（ユダ王国）の王として最初に遂行したことは、サウルを適切に葬った名誉な行為のために、ヤベシ・ギレアデの人々の祝福であった（2：4-7）。そうすることによって、北の王国（イスラエル王国）に対し南の王国（ユダ王国）はサウルを王として声明するためのささやかなほめかしであったように伺える（7節）。しかし、北のイスラエル王国はそれを無視し、サウルとその従者への忠誠の持続を選択した。

イシュ・ボシェテ、北の（イスラエル王国の）王となる： 2：8-11

サウルの元将軍であったアブネルは、王としての権力を代行する者であった。サウルの息子の内、一人だけ生き残ったイシュ・ボシェテはアブネルに完全に動かされている操り人形の王であった。アブネルはイスラエルの中の自分の権力ある立場を延長しようとしていたので、ダビデの王位への上昇に反対していたように伺える。

南北間の内戦： 2：12-3：1

ダビデは、甥のヨアブを軍隊指揮官に命じた。間もなくアブネルは力試しに北の王国（イスラエル王国）の軍隊を率いて南の王国（ユダ王国）のヨアブの軍隊攻撃に動いた。12人対12人の死線がギベオンの池の傍で勃発し（2：12-16）ヨアブの軍隊は一日にして即アブネルの軍隊を倒した。

その日、戦いはひじょうに激しく、アブネルとイスラエルの人々はダビデの家来たちの前に敗れた。（2：17）

しかし、ダビデの軍隊は、唯一最大の損失を受けた。ヨアブの兄弟、アサヘルがアブネルを追っている際に殺されてしまったことである。ヨアブはそのうち弟の死の復讐のためにアブネルを討つことになる。南北間の権力闘争は7年半に渡ると要約されている。

サウルの家とダビデの家との間の戦争は久しく続き、ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなった。（3：1）

ダビデは、サウルの従者に対して長引く困難が更に7年半続くなどと予知しなかったに違いない。ダビデは、サウルを相手に十分長い期間苦労したのではなかったでしょうか？それでもダビデは、この問題を自分の手で解決しようとはしなかった。ダビデは以前の教訓から、イスラエルの王政への任命の神の時を忍耐強く待たねければならないということを知っていた。同時に、「小さい王国」を治める貴重な教訓も学んだ。それはやがて支配する国家の規模が倍増するときに役立つ教訓であった。

誰にとっても待つのは困難である。しかし、それ以上に、困難の終わりの兆しが見えてきたときに、更に、待ち続けることは、更に至難である。ゴールに手が届きそうなとき、神の時よりも先に自分の手でゴールに到達したいという衝動に駆られる。それでも、自分のペースではなく、神のペースに寄り添って前進するためには、ダビデがそうしたように、私たちが常に神に問わなければならない。**わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであろう。（詩篇32：8）**あなたは、一度でも、飛び付きたいという衝動を抑制して神の御心を待たれたことがあるでしょうか？それとも、待たずに神の前に飛び出された経験ばかりでしょうか？

ダビデ、ヘブロンにて妻を増やす： 3：2-5

ダビデは人生のいくつかの局面において忍耐と服従の教訓を学んだ傍ら、神の教えに背いている領域もあった。みことばに従うのではなく習慣に従い、妻を増やした。王族による一夫多妻の習慣に関しては：「ダビデの時代は、政治的強度を結婚を通して密封された提携によって増した。一夫多妻は高貴な家を確立するための東洋の習慣であった。」（Myrna Alexander, *With Him in the struggle*, p.28）しかし、この習慣は神によって禁じられていた：（王は）**妻を多く持って心を、迷わしてはならない。また自分のために金銀を多くたくわえてはならない。（申命記17：17）**長い目で見ると、ダビデの家族の異なる妻の子孫は、権力争いのために兄弟で競い、さらには殺人によって損なわれた。

私たちが受け継いだ「習慣」や「伝統」の中には、必ずしも、私たちにとって望ましいことでない場合が頻繁にある。先祖から代々受け継いだという理由だけで、それが必ずしも正しいこととは限らない。あなたの受け継いだ習慣や伝統の中で、神のみことばに照らし、再評価する必要がある事柄は無いでしょうか？

アブネル、イシュ・ボシェテを見捨てる： 3：6-11

以前説明した通り、北の王国（イスラエル王国）では、アブネルが真の権力を握っており、王のイシュ・ボシェテは操り人形に過ぎなかった。イシュ・ボシェテがサウルのめかけの一人と関係を持ったことについて（事実上、サウルの王位を引き継ぐ目的であるという告発）アブネルを非難したとき、アブネルは激怒し、ダビデに王国を引き渡すことを誓った。

イシュ・ボシェテはアブネルに言った。「さてサウルには、ひとりのそばめがあった。その名をリヅパといい、アヤの娘であったが、イシボセテはアブネルに言った、「あなたはなぜわたしの父のそばめのところにはいったのですか」。アブネルはイシボセテの言葉を開き、非常に怒って言った、「わたしはユダの犬のかしらですか。わたしはきょう、あなたの父サウルの家と、その兄弟と、その友人とに忠誠をあらわして、あなたをダビデの手に渡すことをしなかったのに、あなたはきょう、女の事のあやまちを挙げてわたしを責められる。主がダビデに誓われたことを、わたしが彼のためになし遂げないならば、神がアブネルをいくえにも罰しられるように。すなわち王国をサウルの家から移し、ダビデの位をダンからベエルシバに至るまで、イスラエルとユダの上に立たせられるであろう」。イシボセテはアブネルを恐れたので、ひと言も彼に答えることができなかった。（3：7-11）

その日以来、アブネルはイシュ・ボシェテを見捨て（結果、イシュ・ボシェテは無力な王となり）、ダビデの王国に移転した。

アブネルの行動はサウルを思い出させる。人々の服従をもたらすために怒りと威圧を用いて支配していた。イシュ・ボシェテがアブネルの目的に適している限り、彼に「権力」を持続させた。しかし、アブネルに対抗した瞬間、アブネルは彼をまるで不要物のごとく捨てた。ときに私たちは、人に対して尊敬すべき人として接するのではなく、「物」のごとく扱ってしまうことがある。Pete Scazzero は、Emotionally Healthy Spirituality, pp. 181-18, このような、人を神に似せて造られた完全な人間（私-汝）として接する代わりに、

目的達成のための道具（私-それ）として扱う問題について語っている。私たちが注意する価値ある強力な概念である。その概念は、私たちの人との接し方を根っから変えてくれるものである。

アブネル、イスラエル全土をダビデに手渡すために動く： 3：12-21

アブネルはヘブロンにいるダビデのもとに使者をつかわして言った、「国は誰のものですか。わたしと契約を結びなさい。わたしはあなたに力添えして、イスラエルをことごとくあなたのものにしましょう」。（3：12）

アブネルは北の王国（イスラエル国）の主要な指導者たちと協議し、ダビデが神に与えられた王であるということ説得した。

アブネルはイスラエルの長老たちと協議して言った、「あなたがたは以前からダビデをあなたがたの王とすることを求めていましたが、今それをしなさい。主がダビデについて、『わたしのしもべダビデの手によって、わたしの民イスラエルをペリシテびとの手、およびもろもろの敵の手から救い出すであろう』と言われたからです」。（3：17, 18）

統一契約の一環として、ダビデは最初の妻、ミカル（サウルの娘）を取り戻すことを強要した（3：13-16）。結局、ダビデはミカルを勝ち取るために懸命に戦った。そのことによってミカルの夫、パルテエルは取り乱したが、ミカルをダビデに返すことを強いられた。その時点で、ダビデにの妻の数は7人となった（その後もさらに追加されるのです!）。

アブネル自身の言葉から（18節）、神がダビデをイスラエルの王とされることを知っていたように伺える。ではなぜアブネルは、その過程に対して7年半の間、抵抗して来たのでしょうか？神が、私たちに明確にされた御心に逆らうということは愚かなことである。意志が強い人は、多くの場合それが財産となり得る。しかし、意志の強い人は、聖霊の促しに降伏し、賢明な人に確認し、神の声に耳を傾けていることを確認する必要がある。

ヨアブ、アブネルを殺す： 3：22-30

あらゆる面で、アブネルはイシュ・ボシェテを制御したように、ダビデを制御しようとした。ダビデがアブネルと協定を結んだということを知ったヨアブはアブネルを信頼した「王」を愚か者呼ばわりした。

そこでヨアブは王のもとに行って言った、「あなたは何をなさったのですか。アブネルがあなたの所にきたのに、あなたはどのように、彼を返し去らせられたのですか。ネルの子アブネルがあなたを欺くためにきたこと、そしてあなたの出入りを知り、またあなたのなさっていることを、ことごとく知るためにきたことをあなたはごぞんじです」。(32:24, 25)

しかし、ヨアブは更に一步先へ突出した。完全にダビデの意に反し、ヨアブの一存で兄弟アサヘルアサヘルの死の敵討ちとしてアブネルを追い詰め、殺した。

ヨアブはダビデの所から出てきて、使者をつかわし、アブネルを追わせたので、彼らはシラの井戸から彼を連れて帰った。しかしダビデはその事を知らなかった。アブネルがヘブロンに帰ってきたとき、ヨアブはひそかに語ろうといて彼を門のうちに連れて行き、その所で彼の腹を刺して死なせ、自分の兄弟アサヘルアサヘルの血を報いた。(3:26, 27)

ダビデ、アブネルの死を嘆く： 3:31-39

ダビデがヨアブのしたことを聞いたとき、ダビデは衣服を裂き、アブネルの死を嘆いた(サウルとヨナタンの時と同様である)。

その日すべての民およびイスラエルは皆、ネルの子アブネルを殺したのは、王の意思によるものでないことを知った。王はその家来たちに言った、「この日イスラエルで、ひとりの偉大なる将軍が倒れたのをあなたがたは知らないのか。わたしは油を注がれた王であるけれども、今日なお弱い。ゼルヤの子であるこれらの人々はわたしの手におえない。どうぞ主が悪を行う者に、その悪にしたがって報いられるように」。(3:37-39)

ゼルヤの息子たち(ヨアブ、アビシャイ、アサヘル)は、ダビデの甥であった。アブネルの手によってアサヘルアサヘルが早くに死んだ傍ら、ヨアブとアビシャイは引き続きダビデの主要な将軍として仕えた。ヨアブは非常に有能な将軍であることは確かである、しかし、意志が非常に強く、時には直接ダビデの

頭の前へと飛び出し、自分の意志を貫いた。後に、このダビデとヨアブの間の権力の闘争は最大の悲劇、ダビデの息子アブサロムの死へと展開する。

あなたが指導者の立場にあるとき、レベルが高く有能で、あなたに忠実な働き人を持つことは祝福である。しかし、一部の者は(ヨアブのように)忠誠心をねじまげてそれを言い訳とし、指導者のために何が最善であるかを独断で決定し自分のやり方で処理する者がいます。それは、指導者であるあなた自身の評判、また、組織全体に大きなダメージを与えます。ヨアブによるアブネル殺人のためにダビデに強いられた公的損傷制御について注意しましょう。あなたの主要な働き人が次のことを知っていることを確認しましょう

- 1) あなたが彼らの忠誠を非常に感謝しているということ。しかし、
- 2) 二人の働きに影響する重要な決断には、あなたが含められなければならない必要性。

イシュ・ボシェテの殺人： 4:1-12

アブネルが殺されるとき、北の部族は混乱状態に置かれていた。イシュ・ボシェテでさえも何をしてよいか戸惑っていた。

サウルの子イシボセテは、アブネルがヘブロンで死んだことを聞いて、その力を失い、イスラエルは皆あわてた。(4:1)

二人の北の王国の略奪隊の隊長レカブとバアナは立ち上がり、イシュ・ボシェテを殺し北の部族をダビデに引き渡した。彼らは、そのことによってダビデが喜ぶであろうと勘違いしていた。ダビデがサウルの従者の一人一人を尊く思っているということを知らずにダビデの元に良い知らせを持って来た。

イシボセテの首をヘブロンにいるダビデのもとに携えて行って王に言った、「あなたの命を求めたあなたの敵サウルの子イシボセテの首です。主はきょう、わが君、王のためにサウルとそのすえとに報復されました」。(4:8)

ダビデの返事は彼らにとって良い知らせではなかった：

ダビデはペロテびとリンモンの子レカブとその兄弟バアナに答えた、「わたしの命を、もろもろの苦難から救われた主は生きておられる。わたしはかつて、人がわたしに告げて、『見よ、サウルは死んだ』と言って、みず

から良いおとずれを伝える者と思っていた者を捕えてチクラグで殺し、そのおとずれに報いたのだ。悪人が正しい人をその家の床の上で殺したときは、なおさらのことだ。今わたしが、彼の血を流した罪を報い、あなたがたを、この地から絶ち滅ぼさないでおくであろうか」。(4:9-11)

このようにして、7年半の混乱状態を経て、ようやくダビデのイスラエル全土の王となる道がほぼ整った(5章以降)。それでも、ダビデは、サウルの従者の残りのちらつきを消滅させるために自分の手を下すことを拒んだ。ダビデは、最後まで神が、神の時に、神のやり方でダビデのイスラエル全土の王位への道を整えてくださることを待った。

ダビデの人生から学ぶべく最も重要な教訓は、ダビデの物事を制御し、自分のやり方で操縦し、前進しようとする誘惑に抵抗する力である。その他の者たち(アブネル、ヨアブ、レカブ、バアナ、等)は、自己操縦し、制御し、操作してきたが、ダビデは自分の策略や自身の力に頼るのではなく、神に希望をおき、それを維持することが出来た。神がダビデに委託していた事柄の範囲内で忠実であった。良い決断を下し、民の承認を得た。敵をも敬った。王国の一部を管理することによって貴重な教訓を学んだ。このようにして、ダビデはこの困難な7年半の終わりには、困難な期間を通して成長することが出来たことを神に賛美することが出来た：わたしの命を、もろもろの苦難から救われた主は生きておられる。(4:9)私(ボブ牧師)は、1980年にシャーリー(牧師婦人)と家族を連れて海外に宣教師として移る準備が整ったときのことを思い出します。しかし、神は、想定外の4年間の遠回りへと導かれたので、結果、引越しがかなったのは1984年であった。この回り道の4年間の全ては、海外での宣教準備のために欠かせない準備期間となった。1994年にも再び、2年半の転換期のための迂回が要され、それが最終的にオークポイント教会の立ち上げへと繋がった。その間に学んだ全てのことは、後に担う役割に欠かせないものであった。

あなたの歩みの中で、次の章に「到着」する前に、神があなたに学ばせようとしておられる想定外の「間」で、神に信頼することを学びましょう。神の議題の中にあなたの人生に無駄な季節はありません。